

精神科病院における 新型コロナウイルス感染症患者の対応 — 重点医療機関としての治療経験を踏まえて —

芳野 詠子[†] 石川 翠里^{*} 谷 口 謙^{*}
瀧 本 良 博^{*} 井 上 眞^{*} 紙 野 晃 人^{*}

IRYO Vol. 76 No. 5 (386–392) 2022

要 旨

精神科病院である国立病院機構やまと精神医療センター（当院）では、2020年5月奈良県から精神疾患を有する新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者の受け入れ要請に対して、既存の結核病棟エリアを利用して入院体制を整備し、2020年11月から翌年11月までに121名の新型コロナ感染を合併した精神障害患者を受け入れた。すなわち、第3波（2020年11月–2021年1月）（29例、男性15例女性14例、入院日数中央値9日、年齢中央値68歳）および第4波（2021年4月–6月）（46例、男性21例、女性25例、入院日数中央値10日、年齢中央値74歳）では、高齢者施設や知的障害者施設で発生したクラスターから認知症、知的障害の患者を多く受け入れ、第5波（2021年7月–10月）（46例、男性25例、女性21例、入院日数中央値10日、年齢中央値44歳）では上記クラスターのほか、うつ病、双極性障害、パニック障害などの精神科クリニック通院歴のある患者も多数受け入れた。第5波では知的障害者施設で大規模なクラスターが発生し、奈良県からカシリビマブ/イムデビマブ投与短期入院の要請があり、7名の短期入院患者を受け入れた。奈良県の取り決めに従い、重症化例は奈良県立医科大学附属病院へ転院し、退院基準を満たすが入院継続が必要な症例は後方支援病院へ転院した。スタッフの感染では、2020年12月末に当院コロナ対応看護スタッフ3名が感染したが、密着した看護が原因と考えられ、その後はN95マスクで感染は予防できた。精神症状、知的障害、行動障害をともなう患者は、一般の感染症医療では想定しえない治療の困難さがあり、このことを前提とした医療者側の感染防止対策をまとめてみた。

キーワード 精神科病院, 新型コロナウイルス感染症, 精神疾患, 認知症, 知的障害

はじめに

精神症状、行動障害をともなう患者は、身体疾患を合併した際、一般病院での入院治療を受けること

が難しい場合が少なくない。2020年初頭より新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が猛威を振るい、精神症状、行動障害をともなう患者も多く罹患することとなった。国立病院機構やまと精神医療セン

国立病院機構やまと精神医療センター 内科・呼吸器科 *精神科 †医師
著者連絡先：芳野詠子 国立病院機構やまと精神医療センター 内科・呼吸器科
〒639-1042 奈良県大和郡山市小泉町2815番地
e-mail : yoshino.eiko.pz@mail.hosp.go.jp
(2022年2月7日受付, 2022年8月5日受理)

Establishing a System for Treating COVID-19 Patients within a Psychiatric Hospital Based on Experience at a Priority Medical Institution

Eiko Yoshino, Midori Ishikawa, Ken Taniguchi, Yoshihiro Takimoto, Makoto Inoue, and Kouzin Kamino, Department of Internal Medicine and Respiratory, *Department of Psychiatry, NHO Yamato Psychiatric Medical Center
(Received Feb. 7, 2022, Accepted Aug. 5, 2022)

Key Words : psychiatric hospital, COVID-19, psychiatric disorders, dementia, intellectual disability